

スイス・バーゼル発、2008年7月24日

英文リリース日本語訳

## 2008年度上半期業績発表：高い業績、前向きな見通し

- 売上高は、恒常為替レートで**20%増の73億ドル**（約**7,600億円**）
- 農薬事業売上高は、**21%増の55億5千万ドル**（約**5,787億円**）
- 種子事業の売上高は、**15%増の17億4千万ドル**（約**1,813億円**）
- 一株当たり利益<sup>(1)</sup>は、**36%増の16.53ドル**（約**1,722円**）
- 特別項目を差し引いた後の一株当たり利益は、**15.93ドル**（約**1,660円**）
- 長期需要増加を満たす生産能力の拡大

	財務概要				
	2008年 上半期 百万ドル	2008年 上半期 億円	2007年 上半期 百万ドル	2007年 上半期 億円	現地 通貨 %
売上高	<b>7295</b>	7600	5690	6855	+28
純利益 <sup>(2)</sup>	<b>1519</b>	1583	1219	1469	+25
一株当たり 利益	<b>\$15.93</b>	1660円	\$12.43	1498円	+28

	特別項目を除く					
	2008年 上半期 百万ドル	2008年 上半期 億円	2007年 上半期 百万ドル	2007年 上半期 億円	現地 通貨 %	CER %
	<b>7295</b>	7600	5690	6855	+28	+20
	<b>1576</b>	1642	1190	1434	+33	-
	<b>\$16.53</b>	1722円	\$12.13	1461	+36	-
	<b>\$16.53</b>	1722円	\$11.75	1416	+41	-

2007年の非経常収入を除く

換算レート:2008年:\$1=104.2円、2007年:\$1=120.48円

文中の前年比は恒常為替レート(CER)による

最高経営責任者のマイク・マックは、次のように語っています。

商品相場の高騰とそれらが食品の価格に与える影響は、農業が極めて重要な役割を担っていることの認識を高めています。今後20年間に世界的に50%の食糧供給を増加するという課題は、収量増加を継続することだけではなく、そのスピードの加速も求められています。シンジェンタの2008年度上半期の業績は、技術がすでに生産性向上の役割を果たしていることを表しています。全ての地域における高い業績は、世界中の農業生産者の更なる農業投資への意向を明示しています。農薬事業における見通しは、大幅な売上増加が見込まれる製品の生産拡大に投資を決定したことでも明らかです。種子事業では、当社のトウモロコシと大豆および現在開発中の製品に対する価値の高まりは、ナタネと野菜の急速な成長を伴っています。全ての事業において、私たちは生産性向上の必要性が最も高い国々に近代農業技術による利益をもたらすため、新興成長市場への焦点を強化しています。

(1) 完全希薄化ベースでの一株当たり利益、リストラおよび損益を除く (2) シンジェンタ AG 株主への純利益

## 2008年度上半期業績

### 売上高は20%増

売上高は、全製品、全地域において恒常為替レート（CER）で20%増加しました。売上の伸びは、主として販売数量の増加によるもので値上げによる影響は3%でした。報告されている売上高は、昨年同期比28%増の73億ドルでした。農薬事業部門の売上高は、21%増（CER）で、種子事業部門の売上高は、15%増でした。

### EBITDA マージンは31%に到達

EBITDA（利払い・税引き・償却前利益）は、21%増（CER）の23億ドルでした。販売量の増加が主要な原動力となりました。値上と業務の効率化は、ビジネス拡大に関連したコストの上昇を相殺して余りあるものでした。

**通貨:** ユーロに対して顕著に脆弱な米ドルは、売上に好影響をもたらし、EBITDAは、1億6千9百万ドル増加しました。

### 一株当たり利益は36%増

特別項目を除く一株当たり利益は、36%増の16.53ドルでした。2007年の非経常収入を除いた一株当たり利益は、41%増加しました。これは営業利益の増加によるものです。特別項目に対する経費を差し引いた後の一株当たり利益は、15.93ドルでした。（2007年：12.43ドル、非経常収入を除く）。

## ビジネスハイライト

### 農薬事業部門：全製品、全地域において成長

2008年、世界中の農業生産者が収穫量を最大限に引き上げようと重点的に取り組んだことにより農薬製品の使用が増加しました。こうした中、シンジェンタのユニークな製品群のベネフィットがよく認知され、全ての地域において傑出した業績に結びついています。

ヨーロッパ、アフリカ、中東地域では、農業への投資の回復が西ヨーロッパの力強い成長に繋がっています。東ヨーロッパでは、近代化農業への進行と幅広いシンジェンタの製品の広がりが続いています。

NAFTA地域では、米国においてトウモロコシの作付面積が減少したことによる選択性除草剤の売上の影響は、新しい殺菌剤および非選択性除草剤の利用拡大により相殺して余りあるものでした。アジア・太平洋地域では、特に中国とインドが引き続き成長を牽引し、日本の停滞を相殺して余りあるものでした。ラテンアメリカ地域は、素晴らしい業績でシーズンを終わりました。大豆の高値は生産者の収穫量を引き上げる意欲を後押しし、トウモロコシなどその他作物の需要も増大しました。シンジェンタの主要な製品ラインアップと顧客との緊密な関係は、このような環境で最大限に活かされました。

私たちの製品の幅広さは、全製品群によって力強い成長を反映し、三つの主要な化合物が主な役割を果たしています。殺菌剤 アミスター®（アズキシストロビン）の57%の売上の伸びは、過去3年間に上市された幅広い作物に利用できる混合剤の成功により推進されました。殺虫剤 チアメトキサムの32%の売上の伸びは、アクタラ®（葉面散布と土壌処理に使用）およびクルーザー®（主に殺菌剤と組み合わせて種子処理に使用）の成長によるものです。非選択性除草剤 タッチダウン®は50%近くの値上と除草剤耐性作物におけるグリホサートの高需要によりこれまでにない成長を達成しました。

**新製品：**最大売上目標を4億ドルに上方修正した **DURIVO®**は、インドネシアで稲への上市に成功しました。また今年中にさらに他の国での上市が予定されています。最初の1年で素晴らしいスタートを切ったレーバスは、現在50カ国以上で登録が予定されています。**AXIAL®**の広がり、多用途の製品特性と穀類における需要増を反映して、売上を2倍近くに伸ばしています。**AVICTA®**の売上は、米国の綿花の作付面積が減少したことにより下回りました。製品の性能はすばらしく、今年はブラジルで綿花に、2009年には米国でトウモロコシにおいて上市を予定しています。新製品（2006年以降に上市された製品として定義される）の連結最大売上は、10億ドルを超えると予測されています。

**EBITDA** は、25% (CER) 増加し20億2百万ドルで、36.3%という記録的なマージンに達しました。実質的な販売量の伸びと値上は、上半期における3000万ドルの原材料原価の値上がりの影響を相殺して余りあるものでした。その上、成長の機会における重要な投資を可能にしました。

**R&D パイプライン：**シンジェンタは、2012年以降に2億ドルを超える売上の可能性がある製品を開発しています。6月にシンジェンタとデュポンは、2012年の発売開始を目指し、広範囲のスペクトラムを有するデュポンの新規殺虫剤 **Cyazypyr™**の登録に必要な試験を共同で行なうことを発表しました。1月には、畑作物をストレスから保護するユニークな製品である **INVINSAT™** 技術の開発と商品化に関して、ローム&ハース社と戦略的提携をする旨の同意書に署名しました。2年以内の上市を目標とし、5億ドル以上の市場の可能性を見込んでいます。

#### 種子事業部門: 力強い売上の成長、事業変革の更なる進展

シンジェンタは、トウモロコシ、大豆、ナタネ、テンサイ、野菜および花卉を網羅する種子業界において最も多様な品揃えを持つ会社の一つです。研究開発費は、様々な新しい技術を市場に提供するために、シンジェンタの世界的な遺伝資源をベースとした育種技術に投資されています。

米国における **トウモロコシ**の作付面積は減少しましたが、トウモロコシ価格の高騰によりその他の全ての地域で作付面積は拡大しました。北アメリカ以外では **GM** 技術が初期段階であるために、このような地域では作付面積の拡大だけでなくシンジェンタの従来型の交配種の強みが反映されています。米国では、**GM** 技術の浸透が引き続き拡大しており、自社のトリプルスタック形質の上市に成功しました。これによって現在のトウモロコシの形質と組み合わせた品種が揃いました。品揃えのさらなる品質向上は、これらの形質と優れた遺伝形質との組み合わせによって達成されます。ブラジルでは、**Bt11** が承認され新しいトウモロコシ技術の導入においてシンジェンタがリーダーシップを発揮することができます。上半期における **大豆**の売上は、米国の作付面積の大豆へのシフトと **NK®**ブランド種子の収量における優位性を反映して、堅調な伸びを示しました。

多様な畑作物の成長は、ナタネの作付面積の拡大、東ヨーロッパでの市場シェアの伸び、および米国におけるグリホサート耐性のテンサイ上市の成功により促進されました。

野菜及び花卉の潜在的な成長は、価値の高い作物に焦点を絞っているイスラエルの野菜の種子会社 **Zeraim Gedera** 社と花卉事業における世界的リーダーとしてのシンジェンタの地位を強固にするドイツのフィッシャー社との合併により補完されました。

**EBITDA** は、2 億 7 千 2 百万ドルに増加し(2007 年: 2 億 2 百万ドル)、**EBITDA** のマージンは **15.6 %** でした。種子事業部門は、開発中の新製品が様々な将来のバイオ技術の可能性を確実にとらえるためにトウモロコシと大豆への投資を継続しています。このことを加味すると **2008 年** を通して **5 %** の **EBITDA** マージンの達成に向けて順調に進んでいます。トウモロコシにおいて様々な形質の展開は、野菜のような高いマージンを可能にする事業とともに、**2009 年から 2011 年の 15% 目標**に、その後の更なる進展も含めて飛躍的なマージンの拡大を促進するでしょう。

**R&D パイプライン:** 多くの第二世代の形質の上市は、**2009 年** 以降を目指しています。これらには、幅広い鱗翅目昆虫耐性、より効率的なバイオエタノール生産のためのコーンアミラーゼ、早魃耐性トウモロコシが含まれます。こうした製品の上市により、生産性の向上と最終利用者のメリットの両方をもった複数のスタック形質種子を提供することができます。

**2008 年** 上半期に、開発中の新製品の価値を確約する二つの契約について発表しました。2 月には、シンジェンタとデュポンはパイオニア・ハイブレッド社に幅広い鱗翅目昆虫耐性形質へのアクセス権を許諾する世界的な契約の締結を発表しました。5 月には、モンサントと未解決のトウモロコシと大豆に関する全ての訴訟について和解したことを発表しました。これには新製品の市場への投入を促進し、農業生産者の選択の範囲を広げることを相互に可能にする条項が含まれています。

私たちの研究開発戦略は、新興成長市場のニーズと機会を十分に考慮して策定しています。昨年発表した中国における **Genetics and Developmental Biology** 研究所との **5 年間** の共同研究に加えて、今年 4 月にシンジェンタは、主要作物の組み換え並びに従来形質の早期評価を行なうために新しいバイオテクノロジー研究所の建設を発表しました。この投資は、今後 5 年間で最大 **6 千 5 百万ドル** に達し、**2010 年** までには研究者やスタッフを含め約 **200 人** を雇用する予定です。

## 税務

上半期の基礎税率は、**22%** でした。(2007 年: **22 %**). 同様の税率が **2008 年** を通して見込まれ、中期的に **20%** 第前半になる見込みです。

## キャッシュフロー

フリーキャッシュフローは、**2 億 4 千万ドル** でした。良好な売掛金の回収と在庫の低さを反映して、売上率に対する取引運転資本率の平均は、**36%** でした。(2007 年: **41%**)

固定資本支出は、種子事業および農薬事業双方への投資が増加した為、昨年を上回る **1 億 6 千 8 百万ドル**(2007 年: **1 億 2 千 5 百万ドル**) でした。

## 生産能力の拡大

本日シンジェンタは、段階的な生産能力拡大プログラムを発表しました。今後 **3 年間** (2008 年 -2010 年) に **6 億ドル** の投資を予定しており、回収期間は、**4 年以内** を見込んでいます。

生産能力の拡大は、シンジェンタの英国にある **Grangemouth** 工場とスイスにある **Monthey** 工場に集中する予定です。関係する主な製品は、殺菌剤 **アズキシストロビン** (アミスター®) と殺虫剤 **チアメトキサム** (アクタラ®/クルーザー®) です。これらの主要な化合物への投資に関する決定は、今日までの成功と生産者が作物に対し品質向上を求める長期的な傾向に裏づけられたものです。これらの製品の最大売上高の可能性は、**35 億ドル** を見込んでいます。(2007 年の売上: **12 億ドル**)

## 株主への還金：

一株あたり 4.80 スイスフラン(2007年:3.80 スイスフラン)の配当金は、2008年4月25日に合計4億5千万ドル相当が支払われました。2008年に10億ドルを株主に償還するというシンジェンタの目標に従って、上半期に合計122万株を総額3億4千9百万ドルで買い戻しました。上半期に株主に償還した総額は、7億9千9百万ドルに達しました。

## 展望

最高経営責任者のマイク・マックは次のように語っています。

上半期の高い業績は、浮揚する農業市場における収量増産に対するシンジェンタの貢献を証明しています。この業績と南半球におけるシーズンの良好な見通しにより、今年の一株当たり利益の成長目標を35%に上方修正することができます。継続的な生産性向上の必要性が、私たちの製品の持続的な需要をもたらすことにより、2009年の1株当たり利益\*の成長目標を10%台後半に上方修正いたします。さらに将来をみると、私たちは生産能力拡大プログラムによる製品提供とビジネス展望に対し、さらに自信を深めています。

\*完全希薄化ベース、2007年の非経常利益、リストラ、減損および株買戻しプログラムを除く

## 農薬事業部門

製品群	上半期		成長率		第2四半期		成長率	
	2008 百万ドル	2007 百万ドル	現地 通貨 %	CER %	2008 百万ドル	2007 百万ドル	現地 通貨 %	CER %
選択性除草剤	1679	1423	+18	+10	904	787	+15	+9
非選択性除草剤	739	461	+60	+52	434	277	+56	+49
殺菌剤	1649	1183	+39	+29	873	606	+44	+33
殺虫剤	779	664	+17	+11	375	347	+8	+3
種子処理	388	299	+30	+23	135	107	+26	+19
プロフェッショナル・ プロダクツ	289	255	+13	+9	143	128	+12	+6
その他	31	18	+73	+70	16	7	+123	+119
合計	5554	4303	+29	+21	2880	2259	+27	+20

**選択性除草剤：** 主要ブランド AXIAL<sup>®</sup>, CALLISTO<sup>®</sup> family, DUAL<sup>®</sup>/BICEP<sup>®</sup> MAGNUM, FUSILADE<sup>®</sup>MAX, TOPIK<sup>®</sup>

穀類の市場拡大により、小麦と大麦の適用性が証明されている AXIAL<sup>®</sup> の導入が加速されたため売上を牽引しました。米国以外でのカリスト関連製品の展開は、トウモロコシの作付面積の増加と製品のローカルニーズに合わせた品揃えが高く受け入れられたことによりました。

**非選択性除草剤:** 主要ブランド グラモキソン<sup>®</sup>, タッチダウン<sup>®</sup>

米国とラテンアメリカにおけるグリホサート耐性作物の作付面積の広がりによってタッチダウン<sup>®</sup>は空前の需要を反映して非常に素晴らしい業績を達成しました。タッチダウン<sup>®</sup>の製品レンジは、今年混合剤 **HALEX<sup>®</sup>**の上市によりさらに差別化されました。良好な価格環境により、調達コストは完全に相殺されました。グラモキソン<sup>®</sup>の売上は、速効的に雑草を枯死させる有効性とグリホサートの供給の逼迫による恩恵を受けました。

**殺菌剤:** 主要ブランド アミスター<sup>®</sup>, **BRAVO<sup>®</sup>**, レーバス<sup>®</sup>, リドミル ゴールド<sup>®</sup>, スコア<sup>®</sup>, チルト<sup>®</sup>, ユニックス<sup>®</sup>

生産者が使用頻度を増し、品質向上への力を注ぎ始めたことによって、殺菌剤における当社のリーダー的地位を強化することができました。アミスター<sup>®</sup>の売上の成長は、複数の作物に使用できる混合剤の成功を反映しています。米国のトウモロコシの殺菌剤市場の進展は、小麦への使用により急速に成長した **QUILT<sup>®</sup>** の上市が推進力となりました。ブラジルでは、**PRIORI Xtra<sup>®</sup>** が今大豆サビ病の予防と処理の主力製品となっています。

**殺虫剤:** 主要ブランド アクタラ<sup>®</sup>, **DURIVO<sup>®</sup>**, フォース<sup>®</sup>, **KARATE<sup>®</sup>**, **PROCLAIM<sup>®</sup>**, **VERTIMEC<sup>®</sup>**

殺虫剤の売上は、全ての地域で増加しました。作物の損失を防ぐため広範に渡る処理が必要な気候条件であるラテンアメリカにおいて特に顕著でした。アジア太平洋地域では、ジェネリック製品がより近代的な技術に段階的に置き換えが進み、売上において強い成長が見られました。アクタラ<sup>®</sup>は、世界の3分の1で売上を伸ばしました。NAFTA 地域におけるフォース<sup>®</sup>の売上の減少は、ヨーロッパにおけるコーンルートワームの広がりにより相殺されました。

**種子処理:** 主要ブランド **AVICTA<sup>®</sup>**, クルーザー<sup>®</sup>, **DIVIDEND<sup>®</sup>**, **MAXIM<sup>®</sup>**

全ての地域において強い成長が見られました。クルーザー<sup>®</sup>は、特に米国の大豆の作付面積が拡大したこと、生産者が大豆におけるそのユニークな活力効果を認知したこと及びフランスにおける登録取得により恩恵を受けました。クルーザー<sup>®</sup>は、20 作物以上で使用されており、これには最近パイオニア・ハイブレッッド社が複数年使用の契約を結んだトウモロコシも含まれます。

**プロフェッショナル・プロダクツ:** 主要ブランド ヘリテージ<sup>®</sup>

ローン&ガーデン製品の力強い売上は、**Fafard** 社の培地およびアジア太平洋地域の芝におけるヘリテージ<sup>®</sup>の順調な成長により達成されました。ホームケア製品は、病気を媒介する生物の管理および木材保護製品において売上を伸ばしました。

農薬事業部門 地域別	上半期		成長率		第2四半期		成長率	
	2008 百万ドル	2007 百万ドル	現地 通貨 %	CER %	2008 百万ドル	2007 百万ドル	現地 通貨 %	CER %
ヨーロッパ、アフリカ、 中東地域	2250	1670	+35	+20	1134	842	+35	+20
NAFTA 地域	1850	1597	+16	+13	1060	914	+16	+14
ラテンアメリカ地域	698	449	+55	+55	318	219	+46	+46
アジア太平洋地域	756	587	+29	+21	368	284	+29	+22
合計	5554	4303	+29	+21	2880	2259	+27	+20

ヨーロッパ、アフリカ、中東地域では、減反政策撤廃による増分利益とともに穀物価格の高騰が穀類およびトウモロコシの作付面積の拡大を促進しました。穀類への殺菌剤使用の顕しい増加など収穫量を増やすための技術が大幅に利用されました。東ヨーロッパでは、引き続き急速な成長がみられ、特にロシア、ウクライナおよびカザフスタンで顕著でした。

NAFTA 地域では、米国のトウモロコシの作付面積の減少の状況下、新しい形質の市場への浸透により順調な売上の伸びを示しました。成長は、トウモロコシと小麦への殺菌剤市場の拡大、タッチダウン®の著しい成長、および更なる種子処理の拡大を反映しています。

ラテンアメリカ地域では、好調を維持したままシーズンを終了しました。ブラジルの市場では、生産者が作付面積を拡大しましたが、主な投資はトウモロコシおよび大豆でした。シンジェンタは、引き続き売掛金と価格の両面における著しい改善により、本地域における市場のリーダーとしての地位を強固にしていきます。

アジア太平洋地域においては、新興成長市場が成長を牽引しました。特にインド、中国、インドネシアおよびベトナムにおいて顕著でした。オーストラリアは、第1四半期に更なる好天に恵まれ、売上が著しく好転しました。

## 種子事業部門

製品群	上半期		成長率		第2四半期		成長率	
	2008 百万ドル	2007 百万ドル	現地 通貨 %	CER %	2008 百万ドル	2007 百万ドル	現地 通貨 %	CER %
トウモロコシおよび大豆	814	732	+11	+7	194	175	+10	+7
畑作物	353	254	+39	+27	151	87	+75	+63
野菜および花卉	572	432	+32	+23	267	216	+23	+16
合計	1739	1418	+23	+15	612	478	+28	+21

トウモロコシおよび大豆：主要ブランド AGRISURE®, NK®, GARST®, GOLDEN HARVEST®

米国のトウモロコシの作付面積減少の早期の予測により、他の地域の生産者がトウモロコシの高値により作付面積を拡大しました。特にヨーロッパにおいて急速な売上の伸びを示

しました。米国では、大豆の売上は作付面積のシフトによって恩恵を受けました。AGRISURE® ブランド名で販売されているトウモロコシのトリプルスタックは、少量での上市でしたが市場への浸透と供給の増加による大幅な成長が見込まれています。

**畑作物:** 主要ブランド NK® oilseeds, HILLESÖG® sugar beet

畑作物は、主としてヒマワリにおける NK ブランドの強さにより高い伸びを示しました。特に東ヨーロッパにおける健康に良い食用油の需要が目覚ましい成長を導きました。テンサイの売上は、米国におけるグリホサート耐性のテンサイの上市によって好転しました。

**野菜および花卉:** 主要ブランド、野菜 S&G®, ROGERS®, Zeraim Gedera; 花卉 S&G®, Fischer

野菜における順調な成長は、Zeraim Gedera 社の統合により補完されました。これによりイスラエルとスペインにおいて高い売上を実現しました。花卉における主な推進力は、2007年に買収した Fischer 社の年間を通じた売上の統合によるものです。

地域別	上半期		成長率		第2四半期		成長率	
	2008	2007	現地	CER	2008	2007	現地	CER
	百万ドル	百万ドル	通貨	%	百万ドル	百万ドル	通貨	%
ヨーロッパ、アフリカ、 中東地域	811	577	+41	+25	286	194	+47	+32
NAFTA 地域	773	722	+7	+6	243	216	+13	+13
ラテンアメリカ地域	66	49	+36	+36	33	29	+12	+12
アジア太平洋地域	89	70	+27	+20	50	39	+27	+22
合計	1739	1418	+23	+15	612	478	+28	+21

シンジェンタは、革新的な研究と技術とにより持続可能な農業を約束する、世界のアグリビジネスをリードする企業です。農薬事業分野では世界第2位、種子事業分野では、世界第3位にランクされています。2007年度の売上高は92億ドル、世界90カ国以上で事業を展開し、2万1,000人の従業員を擁しています。シンジェンタは、スイスとニューヨークの株式市場に上場しています。さらに詳しい情報は、インターネット [www.syngenta.com](http://www.syngenta.com) (英語) または、[www.syngenta.co.jp](http://www.syngenta.co.jp) (日本語) でご覧ください。

*将来の見通しに関する記述についての注意事項*

本リリースには、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、「見込まれています」、「でしょう」、「の予定です」、「潜在的な」、「計画」、「展望」、「推定」、「目的」、「目標」またはその他これに類似した表現により特定されます。そのような将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受けるため、実際の結果と異なる可能性があります。そのようなまたはその他のリスクと不確実性については、シンジェンタが米国証券取引審議会に提出した入手可能な書類をご参照ください。シンジェンタは、実績、前提条件の変化などの要因を反映するための将来の見通しに関するいかなる記述もそれを更新する義務を一切負わないものとします。本リリースの全体または一部は、シンジェンタAGの普通株またはシンジェンタADSの売却もしくは発行を申し出るか、勧誘するものではなく、それらの購入または申込の申し出を勧誘するものでもありません。また、それらの目的のために締結される契約に関してその根拠または拠り所となるものではありません。